

明日を創る幸福感ネットワーク



NI 帝人商事株式会社

NI 帝人商事株式会社は、2001年4月に帝人商事株式会社と日商岩井アパレル株式会社が合併し、新しい世紀を切り拓く未来型商社を目指してスタートしました。価値を創造する「コンバータ」機能を持ち、特異な製品分野で「スペシャリティー」を発揮し、充実した「ネットワーク」で国際社会に貢献することにより、業界に確固たる地位を築いています。

繊維原料・衣料製品、工業資材、産業資材、車輛資材、インテリア関連製品、樹脂、フィルム化学品、工業製品、磁気メディア、液晶モジュール、包装資材、建設資材、段ボール原紙、人工皮革、石油製品、OA機器、その他各種機械などの販売および輸出入取引の分野で、人・技術・機能を活かし、限りある資源をさらなる価値へ発展させるプロフェッショナル集団です。

会社概要

本社所在地：大阪府大阪市中央区南本町 1-6-7
帝人ビル
創立：1952年1月1日
代表者：代表取締役社長 森田順二
資本金：20億円
売上高：2,695億円(2005年3月期 連結)
従業員数：568名(2005年3月末)
事業内容：衣料繊維、産業資材などの販売および輸出入取引
URL：<http://www2.ni-teijinshoji.co.jp/>

NI 帝人商事株式会社

全社員が日常的に利用する財務会計システムの再構築
既存システムを活かし、「DataSpider」で効率的な
データ連携と短期開発を実現

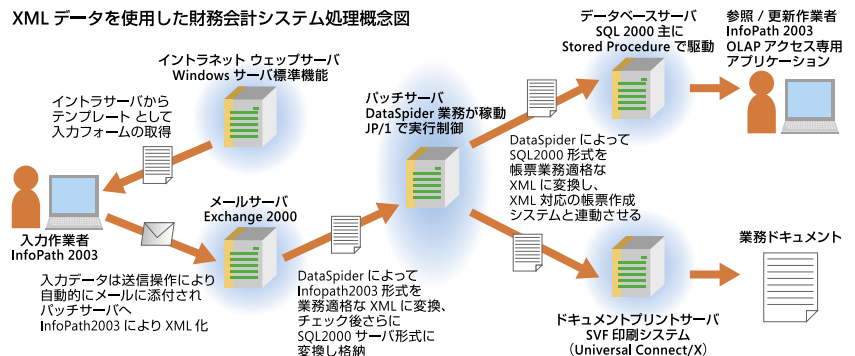
XML 形式を扱える入力フォームと帳票システム間で 「DataSpider」が効率的にデータを連携

NI 帝人商事では、出張旅費や備品購入費の精算などに全社員が日常的に使う財務会計システムの再構築に際して、当初はユーザー(社員)が使い慣れたマイクロソフト社の「エクセル」の利用を検討していました。すでに「オフィス 2003」がスタンダードな環境になっており、それを活用して短期間で開発したいという思いがあったからです。しかし、「エクセル」は表計算ソフトのイメージが根強いため、全社共通の財務会計システムに利用するという点で感覚的疑義が浮上し、別の方法を模索することになりました。そこで、既存システムの「SQL Server」とウイングアーク テクノロジーズ社の帳票システム「Universal Connect/X」+「Super Visual Formade (SVF)」を活用すること。新たに「オフィス 2003」で提供されている「インフォパス (InfoPath)」を入力フォームに利用する案を採用し、システムのユーザーインターフェイスが決定しました。

しかしながら、短期間で開発を行う要件を満たすためには、XML データを効率良く利用し、異なるツールを簡単に“つなげ”、アプリケーションの作りこみを最小限にする必要性が生じてきました。そこで、検討の相上に上がったのがアプレッソ社のデータ連携ソリューション「DataSpider Enterprise Server」(以下「DataSpider」)のパッケージソフトウェアであります。「DataSpider」では、多くのアダプタを有し Universal Connect/X アダプタおよび「インフォパス」に対応する XML アダプタが用意されており、これらのアダプタを活用すれば異なる IT ツールを接続させるためのインターフェイス開発は不要となります。データを簡単に連携させることで、上記要件を満たすことが可能であると判断して「DataSpider」の採用を正式に決定しました。

「DataSpider」に関しては、営業会計システム部分で、全銀手順(銀行との間で振り込みや決済のデータを交換するとき、銀行協会が定めている手順)のフォーマットをフラットファイルに変換する処理などを行うために採用されており、ツールとしての良さを体験していたことが、迅速な意思決定につながりました。

XML データを使用した財務会計システム処理概念図



— 「つくる」から「繋ぐ」へ —
サービスインテグレーションで経営を変える

<http://www.apresso.com>

よい製品（ツール）ならベンチャー企業でも積極採用という姿勢

営業会計システムのデータ連携部分で悩んでいた当時について、経営企画本部・システム部・主事の山本晋也氏は「XML形式で処理すればよいのではないかと考え、インターネット上で調べると、アプレッソ社のDataSpiderが目にとまりました。さっそく試用版を使ってみたら、これならデータ連携の開発ができると思いました。来社してもらって相談しましたが、製品への自信や熱意も伝わってきて、当時名の知られていないベンチャー企業ということは特に気になりませんでした。むしろ、ベンダー中立案なので余計なことを考えなくて済むことは望むところです」と振り返ります。

そして、特に「DataSpider」のマッピングツールであるMapperの使い勝手を高く評価しています。

「プログラミングでは、頭の中で考えたようにプログラムを作り、コンパイルやデバッグをして、処理結果を見て、また頭の中で再構成をするという流れの繰り返しです。しかし、MapperではGUIによるドラッグ＆ドロップで操作できて、データ変換処理をやってみて結果がすぐに分かり、間違いも簡単に修正できる点が素晴らしい」（山本氏）

マッピングツールにはXSLT GeneratorとMerge Mapping Editorもあり、データ連携フローを設計してスクリプトとして管理する開発ツールScript Designerなどがあります。

既存システム環境を有効利用することで リスクの最小化を図り、短期間でシステム構築を実現

今回の財務会計システム再構築は、既存のツールを上手に活用することと、入力インターフェイスを切り出すことでユーザーの使い勝手を考慮し、データを上手に連携させることで、全社規模のシステム開発にもかかわらず約3カ月という短期間で終了することができました。財務会計という数字を扱うシステムであるため、検証期間には3カ月ほどかけましたが、特に問題は発生せず、無事にサービスインしています。

経営企画本部・システム部・主事の西山伸男氏は「インフォパスの画面を利用してユーザーにデータを入力させますが、アナログの（物理的な）承認過程があるので帳票として出力する必要があります。このため、帳票システムのUniversal Connect/Xに対応するXML形式にデータを変換しなければなりません。DataSpiderには対応するアダプタがあり、帳票のためのプログラムを作る必要がなく、非常に短期間で開発することができました」と話しており、また、「入力の形式が決まっていれば、出力の形式も決まっていれば、あとはDataSpiderでデータをマッピング（関係付けと変換）するだけですから、効率的に開発できる」とも話されているように、アナログの業務処理を含めて、業務要件の全てをアプリケーションとして開発するとプロジェクトも大規模化し、長期化していきますが、アナログの業務処理の柔軟な対応も含めて、データを上手く連携させることで短期間でシステム構築を実現させました。

未来型商社の実現へ向けての 「DataSpider」の適用範囲の拡大へ向けて

NI 帝人商事では、大小さまざまな取引先とのデータのやりとりが日々発生します。統一したフォームでのデータ処理も行われていますが、個別に対応する場面も多々あり、今回の効果を踏まえて、そのデータ連携に「DataSpider」を活用するケースが検討されています。

「相手が望む取引条件にできるだけ対応し、融通を利かせるのが商社の役割だと私は考えています。メーカー側は製品を出荷したらずく支払ってほしい。販売店側は商品が売れてから支払いたい。その決済のタイムラグを吸収するのが商社ではないかと思っています」（山本氏）というように、さまざまな条件に対応し、データのやりとりに際して形式（フォーム）の違いを吸収することも商社には求められているわけです。

このような柔軟かつ迅速な対応が求められる商社などの業態において、例外対応や個別対応を吸収させながらデータ連携させ業務生産性の向上を図り、更に、新しい業務モデルの構築を短期間で実現し、かつ、細かな変更への柔軟なメンテナンスができる「DataSpider」は強力なITツールであり、“価値を創造する「コンバータ」機能”のコンセプト実現へ強力なビジネスツールになることと期待しております。

Mapper 画面



Mapper（データ項目の関係付けと データ変換処理を定義）の特徴

- 120 個以上のロジックアイコンで変換処理を短期間に設定
- 日本固有のロジックをサポート
（全角 ↔ 半角、和暦 ↔ 西暦、数値 ↔ 漢数字、等）
- リアルタイムプレビュー機能で変更の即時チェック
- XML → XML で整列、変換、絞り込みをサポート



NI 帝人商事株式会社
経営企画本部 システム部
主事 山本 晋也 氏



NI 帝人商事株式会社
経営企画本部 システム部
主事 西山 伸男 氏